

令和6・7年度 熊本県教育委員会指定  
「熊本の学び」指定校事業

# 人吉市立第二中学校区研究発表会



## 研究主題

自ら問いを発し、学びを深め、  
未来を切り拓く子供の育成





# I 研究の概要

## 【研究主題】

自ら問いを発し、学びを深め、未来を切り拓く子供の育成

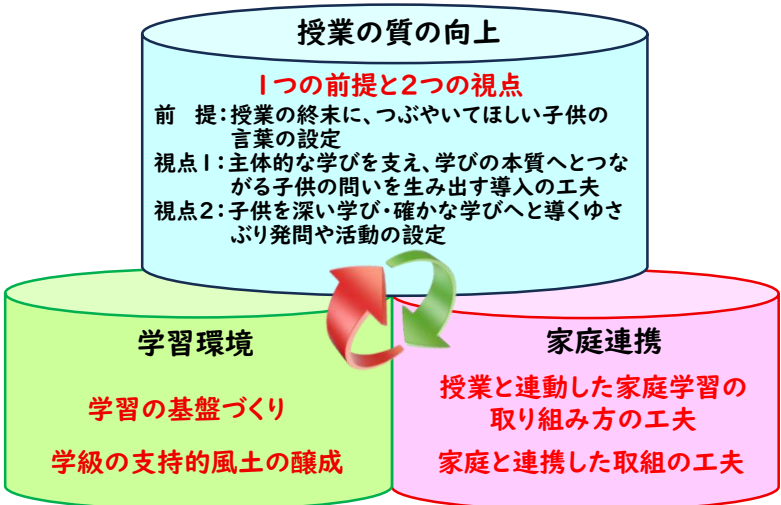
### 【研究主題】

- 「自ら問いを発する姿」とは、  
既有的知識や概念と照らし合わせ、「なぜ」「どうして」「やってみたい」「考えてみたい」という興味・関心や意欲をもち、自分自身で疑問や課題を見つけ、単元を貫く学習課題について解決の見通しをもち、わくわくしながら学ぼうとする姿。
- 「学びを深める姿」とは、  
課題に主体的に立ち向かって他者と協働し、自分の考えをよりよいものにし、根拠をもって自分の考えを表現し、学びを振り返るとともに新たな問いを見だし、次時への学びの意欲を持続する姿。
- 「未来を切り拓く姿」とは、  
熊本の未来の創り手として、変化や未知の状況に積極的に向き合い、自分自身と社会をより良い方向に導こうとする力や意志をもち、個々の可能性を最大限に発揮しながら新しい価値を生み出す姿。その姿は、令和2年7月豪雨で被災した人吉の復興の希望となり、また、予測不可能で変化の激しい時代をたくましく生きる姿でもある。

### 【研究の仮説】

仮説 1	1つの前提と2つの視点に基づいて授業改善を行えば、自ら問いを発し、学びを深め、未来を切り拓く子供が育成されるであろう。
仮説 2	仮説1の授業改善を支えるために学習環境を整え、授業と連動する家庭学習に取り組んでいけば、学びの意欲を喚起し、自律的に学ぶ子供の育成につながるであろう。

研究の構想図（一部）



### 【研究の具体的な取組】

各部会	各部会における共通の視点	具体的な取組内容の一例
授業の質の向上	1つの前提と2つの視点 前 提：授業の終末に、つぶやいてほしい子供の言葉の設定 視点1：主体的な学びを支え、学びの本質へとつながる子供の問いを生み出す導入の工夫 視点2：子供を深い学び・確かな学びへと導くゆさぶり発問や活動の設定	・既習事項とのズレや様々な手法を使った問いを生み出す導入の工夫 ・教科や目的に応じた発問や活動の工夫 ・問いや深い学びを引き出す発問集の作成・活用 ・授業参観シートを活用した授業づくりや授業の省察
学習環境	学習の基盤づくり	・漢字・計算大会 ・読書の推進
	学級の支持的風土の醸成	・コミュニケーションタイム ・ブックトーク
家庭連携	授業と連動した家庭学習の取り組み方の工夫	・家庭学習の手引き ・家庭学習コーナーの設置
	家庭と連携した取組の工夫	・生活習慣の改善に向けた取組 ・家庭への啓発資料の作成

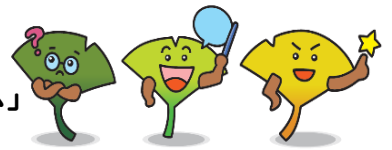
# 人吉市立人吉西小学校

学習で児童の学びを支え、見通しをもつための学びのキャラクター！

☆授業導入での子供の問いやめあてを一緒に探す「ナゼッタ」

☆深い学びや確かな学びになるために納得する答えを見つける「フムフム」

☆次の学びや新しい学びを共にする「ピッカリン」



## 授業の質の向上

### 【視点1】問いを生み出す導入の工夫

前時にはなかった「あまり」から  
問いを生み出す導入の工夫



13人は納得  
しているよ！

事例1つ1つに  
意味があると思う。



### 【視点2】ゆさぶり発問や活動の設定

事例の意図を捉える発問の工夫

昨日勉強したことを使えば解けそう！  
あれ？割りきれない...どうしたら解けるかな？

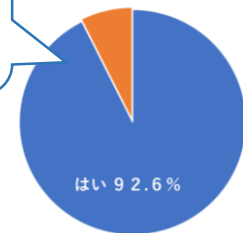
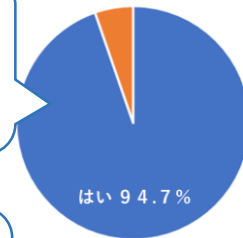
### 漢字・計算大会の実施



コミュニケー  
ションタイムは  
楽しかったです  
か。

コミュニケー  
ションタイムは、  
学習の役に立ち  
そうですか。

### コミュニケーションタイムの実施



9割以上の子供たちが、楽し  
かったと回答。

《理由》

- ・友達の質問に答えたから。
- ・会話を通して、うなずいたり、相づちができたりしたから。

9割以上の子供たちが、役  
に立ちそうと回答。

《理由》

- ・コミュニケーション能力が高められる。
- ・話す中で、自分の考えをもつことができる。

子供がコースを選択し、見通し  
をもって取り組めるようにして  
いる。

## 学習環境

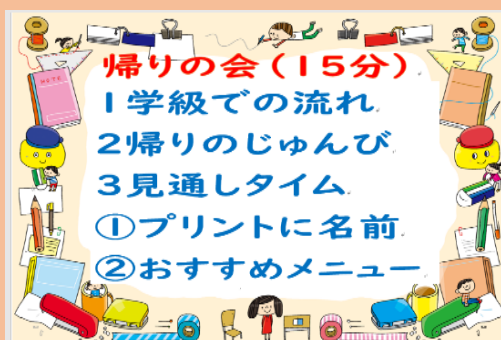
### 見通しタイムの取組

「帰りの会」において、家庭学習  
を見通す時間を設定し、家に  
帰ってからのスケジュールを計  
画する。

### 花丸週間の取組

担任外の職員が家庭学習を見る日を設けることで、  
子供たちの励みとなっている。子供たちは字を丁寧  
に書いたり、自学の中身を工夫したりするなど意欲  
的な取組につながっている。

## 家庭連携



子供の声

新しい漢字を学習した  
から、覚えるために練  
習しよう！

先生の声

家庭学習、頑張ってい  
ますね！



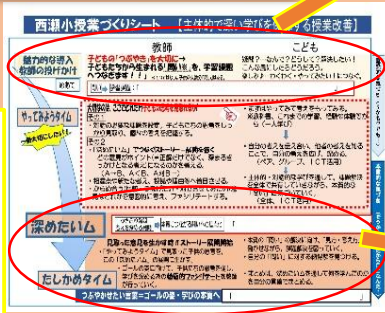
# 人吉市立西瀬小学校

子供と教師で研究を共有  
子供を主体的な学び手に！

【視点1】問いを生み出す導入の工夫

【教師版】  
授業づくりシート

全教員が日々、  
本シートを書き挑戦



前は「来た」だけど、今日は「帰った」だね？どんな式になるだろう  
「問題文の吟味」から…

教師は…  
子供の「問い」  
↓  
質の高いめあて(学習課題)へとつなげる

「引き算だよ」「え、なんで？」  
「…それ、みんなで考えたい！」  
「認識のずれ」を引き出し「問い」へ



【視点2】ゆさぶり発問や活動の設定

限定・類比・否定など、本時のねらいへ向かうための発問

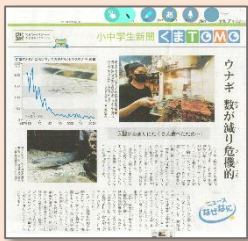
「だって…○○でしょ？」  
「でも…」 「なるほどね！」  
協働的な学習で深まる考え

教師は…  
本質へ向かうファシリテートと価値付け



さざなみタイム

深い学びを支える発信力・表現力up  
教師のファシリテート力の向上



「ウナギを食べなければいいのか？」 「代替食でできないかな…」  
「そもそも何で日本人はウナギがこんなに好きなんだろう？」

新聞記事をもとに、子供たちが「問い」を立て  
話し合い、納得解を見つける。  
教師はファシリテーターを務める。

ぐんぐんタイム

深い学びを支える基礎学力を  
複数体制でサポート



子供たちは自分のペースで進められ、  
気軽に質問できる。

家庭学習コーナー

家庭学習を様々な視点で  
価値づけ、掲示する。  
授業と家庭学習の連動も  
加速。



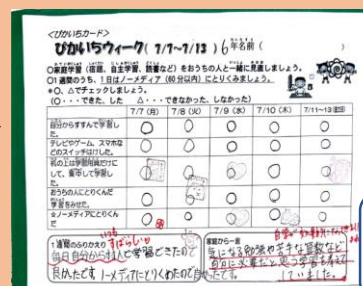
「○○ちゃんの漢字、丁寧ですよ！私もがんばろう！」  
「私もメッセージ書きたいな」



授業での疑問を更に探究

ぴかいちウィーク・花丸デー

家庭での学習の見取りや励ましの機会づくり



「小数の割り算ができるようになってきたね。一問だけやり直しがんばろうか。」

毎月実施

左：「ぴかいちウィーク」…家庭学習の状況や頑張りをカードに記録し、担任と家庭と子供で共有。  
右：「花丸デー」…週末の宿題を家庭で丸付け・支援。



# 人吉市立中原小学校

な んでだろう    か ながえよう    は なしあおう    ラ ストだ振り返ろう

## 【視点1】問いを生み出す導入の工夫

・比較 ・隠す ・学習計画 ・演示 ・依頼 など

「eat」だけでなく「play」でも同じような例として考えられるのでは？

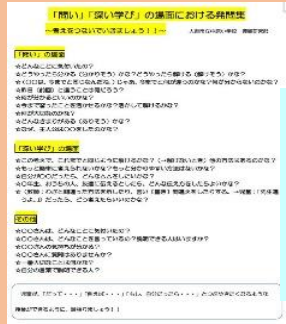


確かに...。  
筆者は、何で  
「eat」の例を取り  
上げたんだろ  
う？

## 【視点2】ゆさぶり発問や活動の設定

・限定 ・類比 否定 など

もし正直に言って、鉄のおのしかもらえなかったら  
木こりはどう思うと思いますか。

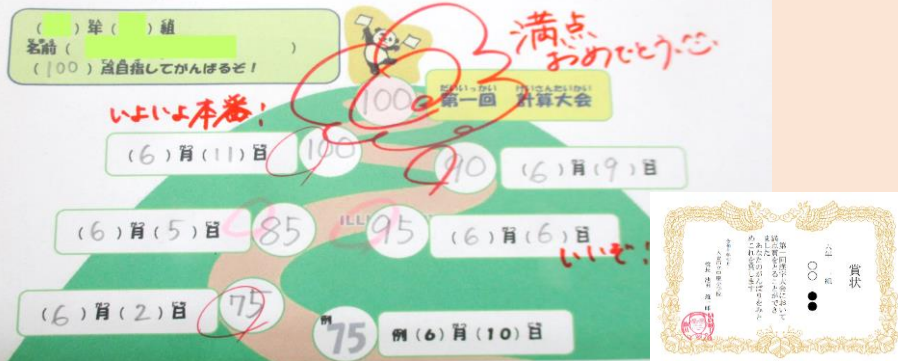


職員用発問集

## 漢字・計算大会の実施

子供が自分で目標を設定し、得点の伸びを実感するとともに、自信をもてるようにしている。さらに、子供の頑張りを讃えるため、ミニ賞状を授与！

### 計算はかせへの道



## RJサークル



私が選んだカード(気持ち)はこれです。  
理由は〇〇だからです。

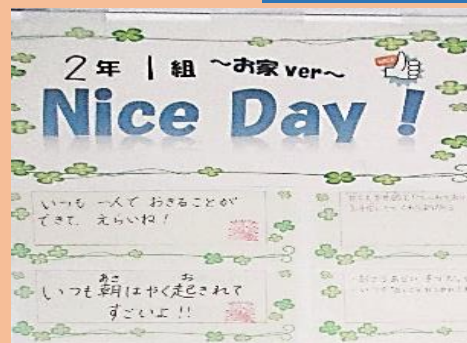
気持ちを表すカードをもとに自分の考えを語る。誰もが思いを語ってよい(相手や多様な考えを受け入れる)という雰囲気づくりやコミュニケーションの向上を図る。

## べにとりコンテスト

自主学習の充実のために、べにとりノート(自学ノート)をお互いに見合い、お手本となるノートを掲示するようにしている。



## 家庭版ナイスデー



子供のよいところを伝え合う校内での「中原ナイスデー」の取組を家庭にも広げ、掲示や通信でも共有している。

## Nice day 通信





# 人吉市立第二中学校

「根拠をもって発言する」力を高める  
「にちゅう」型学習

学びを深める振り返りの充実  
視点は「に・ち・ゆ・う」

【視点1】問いを生み出す導入の工夫

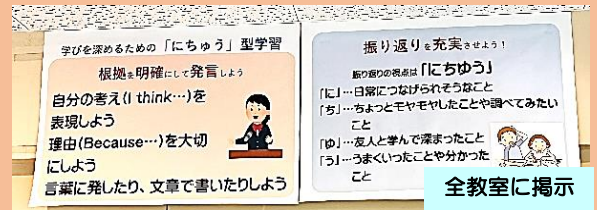
【導入 実践例】家康も秀吉も貿易によって得られる利益を重要視していたよね。じゃあなんで江戸幕府は鎖国したのかな？(社会)

【視点2】ゆさぶり発問や活動の設定

【ゆさぶり 実践例】  
ベーキングパウダーにフェノールフタレインを入れても赤く反応しない。炭酸水素ナトリウムが入っているのになぜだろう？(理科)



授業の質の向上



朝活で学習環境の向上

朝から静かに読書などに取り組み、落ち着いて授業を始められる環境にする。  
さらに、読解力の向上にもつなげる。

学習班の工夫

視写&ブックトーク

「お気に入りの場面は〇〇で、このセリフがステキなんだ。」



10分(400字程度)視写することで、集中力を高める。

本の要約や好きな箇所などを説明。聞く人は、質問をして、コミュニケーションの練習をする。

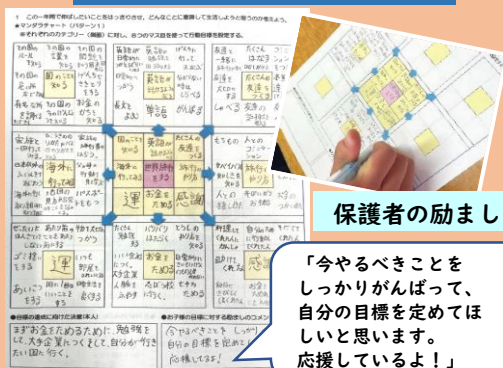


学習環境

意図的な班編成で活発な活動につなげる。  
司会、発表、記録の役割を設け、一人一人に活躍の場をつくる。

キャリア教育の充実

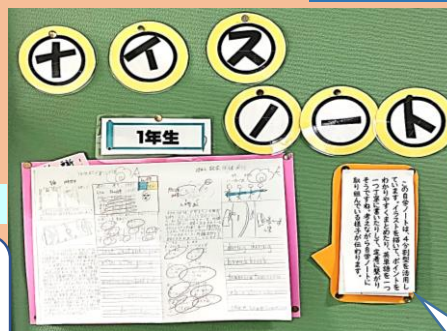
家庭学習の充実



保護者の励まし

「今やるべきことをしっかりがんばって、自分の目標を定めてほしいと思います。応援しています！」

マンダラチャートを使ったキャリアパスポートの作成。  
夢や目標を実現するために必要な力やその力を身に付けるために必要な取組等を明確化する。



見通しタイム

- 家庭学習の手引きの作成、自主学習ノート好事例の校内掲示。
- 帰りの会では、家庭学習の計画を立てる「見通しタイム」を行い、授業と家庭学習を繋いでいる。

自主学習ノート  
良い取組例のポイントをコメント

家庭連携

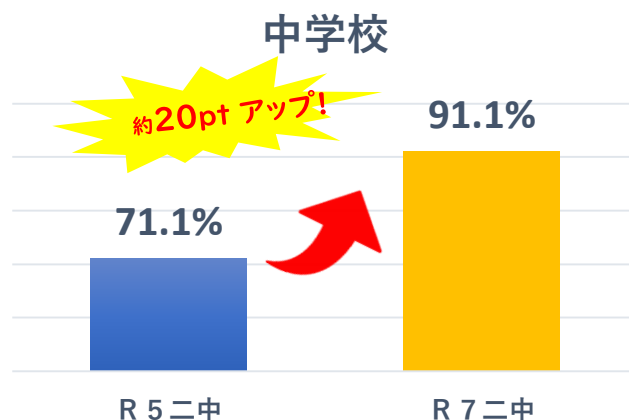
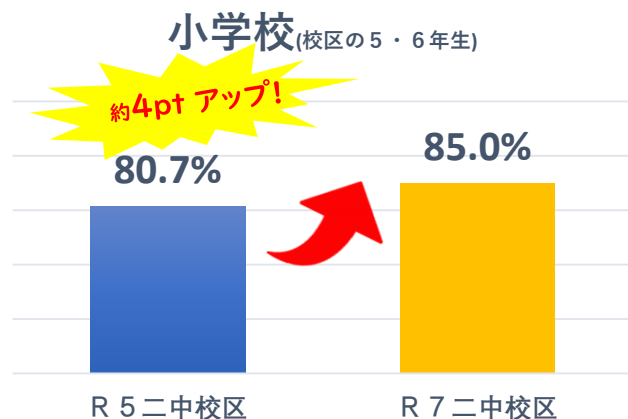
## 2 実態調査と分析

本研究における実態調査として、令和7年7月にアンケート調査を実施した。アンケート項目は、熊本県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙・学校教師質問紙調査の項目より一部抜粋したものを活用している。

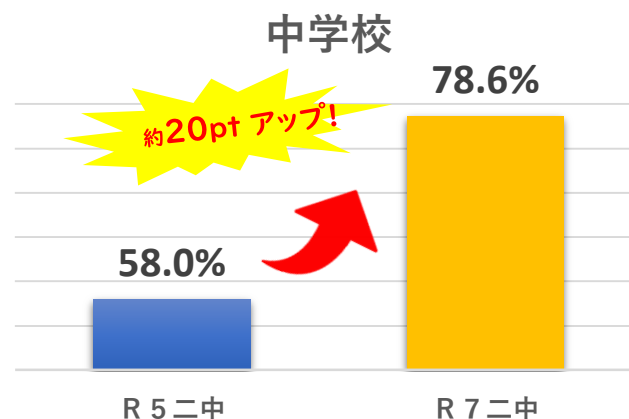
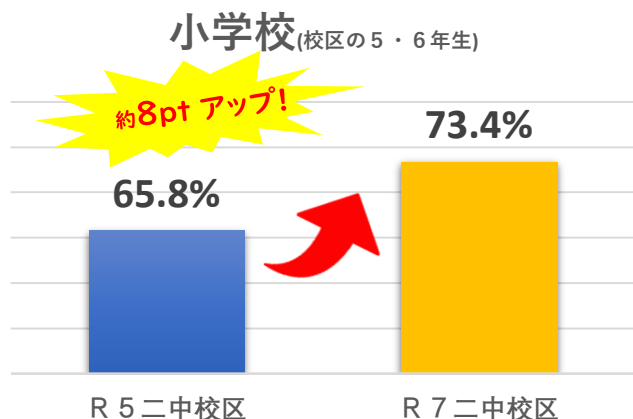
以下には、重点指標1、重点指標2の結果及び学校教師質問紙の結果についてデータを示す。

### 熊本県学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の項目より

【重点指標1】授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



【重点指標2】授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



### 熊本県学力・学習状況調査 学校教師質問紙調査の項目より

【項目2】授業等で関わる児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

令和7年7月 二中校区肯定率 **89.5%** ※小中合算  
(参考) 令和5年12月 二中校区肯定率 71.0% ※小中合算

教師の意識の向上によって、児童生徒の【重点指標1】に関する意識も向上していることが分かります。

【項目10】あなたは、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示したり、引き出したりする活動を計画的に取り入れていますか。

令和7年7月 二中校区肯定率 **98.2%** ※小中合算  
(参考) 令和5年12月 二中校区肯定率 97.9% ※小中合算

授業の質の向上のために“導入の工夫”に取り組んでいることが、教師の意識の高さとして表れています。

## 授業の質の向上

### アンケート内容

授業や普段の生活での問いの追求

小

17.0<sub>pt</sub>  
アップ

中

16.8<sub>pt</sub>  
アップ

友達との話合いによる学習の深まり・楽しさ

10.0<sub>pt</sub>  
アップ

20.0<sub>pt</sub>  
アップ

## 学習環境

### アンケート内容

小

14.0<sub>pt</sub>  
アップ

中

25.7<sub>pt</sub>  
アップ

積極的に発言・発表

協働学習で発言

2.0<sub>pt</sub>  
アップ

12.1<sub>pt</sub>  
アップ

納得解を提案・追求

7.0<sub>pt</sub>  
アップ

12.4<sub>pt</sub>  
アップ

## 家庭連携

### アンケート内容

家庭学習の取組状況

小

量的な変化は見られなかったが、質的にはレベルアップしている。

中

家庭学習を全くしない生徒が6%ほど減少し、1時間以上取り組む生徒が12%ほど増加した。

### 小・中ともにポイントが下がった項目

- ・「努力したときに家の人褒めてくれる」
- ・「友達の話最後まで聞いてから発言」

家庭学習の啓発と併せて、子供の意欲の向上や頑張りを積極的に保護者に伝えていく必要がある。

適切な話合い活動の仕方の指導を行っていく必要がある。

## 3 研究の成果(○)と課題(▲)

○授業の質の向上を目指し、すべての学校で、1つの前提と2つの視点をもとに授業づくりを行うことで、教師の授業改善への意識が高まった。

○すべての学校で共通した視点をもとに、授業を支える学習環境を整えたり、授業と連動する家庭学習に取り組んだりすることで、自ら問いを発し、学びを深めようとする子供の姿が増えた。

○3つの小学校間や小学校・中学校間の連携を通して、9年間を見据えた系統的な指導ができている。

▲持続可能な取組にするために、研究内容を精選していくことも検討が必要である。